大学改革を遂行した研究者が見た日本の医療制度の現状と課題とは

「THE世界大学ランキング」で連続してNo.1に輝く英・オックスフォード大学は、2000年に「ビッグバン」と呼ばれる大改革を行った。大学を4つの部門に分割して独立させるもので、それによって学部間の競争が生まれ、この10年間で集めた研究費は4倍に、学生も増加する成果が得られた。その改革を進めたのが、オックスフォード大学副学長で同大学セント・アントニーズ・カレッジ学長を務めるロジャー・グッドマン教授だ。グッドマン教授は社会人類学者で、現在、日本の医療機関の同族経営を研究する為、来日している。オックスフォード大学の改革の経験や、英国人研究者から見た日本の医療について、グッドマン教授に講演して頂いた。

ロジャー・グッドマン教授
オックスフォード大学 副学長、オックスフォード大学 セント・アントニーズ・カレッジ 学長、東京大学 国際高等研究所 東京カレッジ 客員教授

挨拶

原田 義昭氏「日本の医療の未来を考える会」最高顧問（元環境大臣、弁護士）

本日はオックスフォード大学の副学長を務めるロジャー・グッドマン教授をお招きしました。この勉強会も発足から、ほぼ毎月1回定期的に開催し、今回が78回目となりました。外国から講師をお招きするのは2回目です。日本と英国の文化等の違いを踏まえ、大学の改革や医療制度についてご講演頂けるとの事ですので、しっかり勉強したいと思います。

尾尻 佳津典「日本の医療の未来を考える会」代表（『集中』発行人）

本日はロジャー教授に、日本の医療制度やオックスフォード大学がNo.1の大学である秘訣についてお話し[illegible]本で[illegible]れて来ましたが、今夏に帰国し、取材結果をまとめた著書を出版されます。教授[illegible]の医療制度は素晴らしい」と仰っておられますが、どの様に日本の医療を見ているのかをお聞きしたいと思います。

続きを読むには購読が必要です
詳しくはホームページをご覧下さい